

【基本方針8】

【地域社会をめぐる現状と課題】

○ 「すこやかネット」^{*54}を中心 とした地域教育活動の推進

平成12年度から、学校を核として地域社会が一体となって子どもを育てる「教育コミュニティづくり」に全国に先駆けて取り組んできました。

そのための推進組織として、全中学校区に「すこやかネット（地域教育協議会）」を設置し、学校・家庭・地域の協働により、地域の教育課題の解決に向けた取組みを進めてきました。あわせて、活動の推進役として地域コーディネーターを養成（H13～17：約1,000人）し、その約7割の方々が、「すこやかネット」の運営に関わっています。

また、平成16年度からは、子どもの安全で安心な活動場所を確保する「子どもの居場所づくり」事業も実施されるなど、地域における活動は活性化されてきています。

「すこやかネット」の活動においては、学校を核としながら、地域住民が主体となった

活動が徐々に定着してきており、子どもを取り巻く環境により変化が現れつつあります。

しかし、活動が限られた人に頼っている場合が多く見られることや、イベント的な一過性の取組みが中心になっている場合もあります。

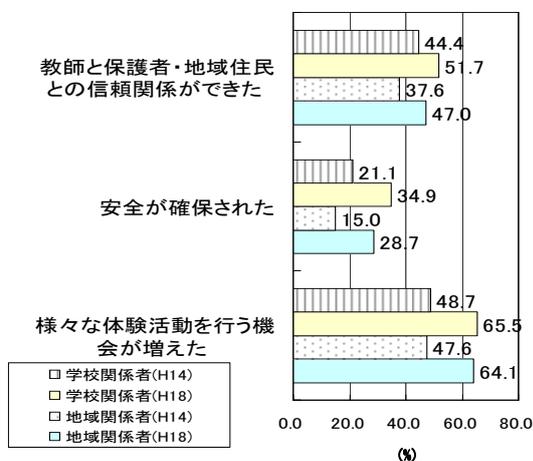
○ 家庭教育支援の取組みの推進

子どものすこやかな成長の基盤となる家庭の教育力の向上を図るため、保護者が子育てに前向きに取り組めるよう、保護者のエンパワメント^{*55}を図るとともに、家庭教育を支援する地域ネットワークの構築に取り組んできました。

学習機会の提供・ネットワーク構築に向けた取組みをおこなう市町村への補助、教材の作成、身近な地域での学習を推進する親学習^{*56}リーダー（H16～18：約400人）の養成等により、家庭教育支援の輪は広がりつつあります。

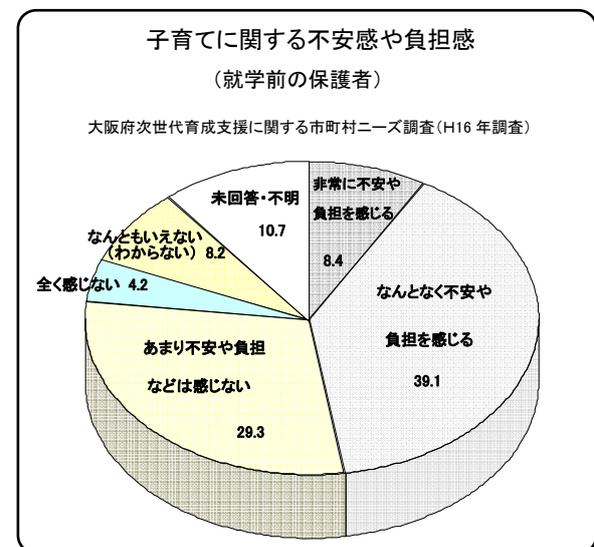
しかし、家庭・地域の教育力の低下が言われる中、「家庭教育（子育て）に不安や負担感を持ちながら学習や他者との交流機会に参加しない・参加しにくい保護者」や「将来、保護者となる世代」への働きかけが十分ではない場合もあります。

《子どもを取り巻く環境の変化》



※H14・H18年度

「すこやかネット」関係者アンケート調査



【基本方針8】

家庭との役割分担、地域との協力で子どもたちの学びと育ちを支えます

子どもたちの生きる力をはぐくむとともに、学ぶ力の向上をめざして、学校・家庭・地域が一体となった「教育コミュニティ」づくりの一層の推進を図ります。

とりわけ、「子どもの学び・育ちの原点」である家庭において、保護者が責任と自信を持って家庭教育にあたるのが重要であることから、改めて保護者が自らの役割を確認し、自覚に基づいた行動につながるよう、学校・地域はもとより、関係部局・機関との連携をさらに深め、多様な学習・交流機会を提供するとともに、地域における家庭教育支援体制の構築を図ります。

（重点項目26）教育コミュニティづくりの主体的な推進

- ◇ 地域全体で子どもをはぐくむため、地域の力を結集して学校支援地域本部^{*57}を設置するとともに、学校内に学校支援ボランティア等地域人材の居場所づくりを促進するなど、地域が**学校を支援する取組みを推進**します。
- ◇ 学校、家庭、地域及び関係機関が連携して、就寝時間、起床時間、家庭学習や食生活など、**子どもたちの生活リズムの確立・向上に向けた取組み**を推進します。
- ◇ 市町村や学校、その他の行政機関、地域の住民など、教育コミュニティづくりに関わる全ての人**が主体的に取り組んでいくことができる組織・体制づくり**を進めます。
- ◇ 身近な地域の教育課題の解決に向けて、**核となる推進役の発掘や育成**を行うとともに、個人や地域の既存の団体に加えて**NPOや企業等との連携**を推進します。

（重点項目27）保護者のエンパワメントと家庭教育を支える地域ネットワークの構築

- ◇ 親学習をはじめ、多様な交流機会等を提供することで、**全ての保護者のエンパワメントを図り、改めて保護者が自らの役割を確認**し、自覚に基づいた行動につながるよう促すとともに、地域における**家庭教育支援のネットワークを拡大・充実**します。また、学校での授業等において、これから親となる子どもたちへの親学習の展開を図ります。

（重点項目28）生きる力をはぐくむ体験活動や読書活動の推進

- ◇ 学校で学ぶ様々な知識とともに、地域や家庭での生活体験を通して、それらの**知識を実感できる機会を拡大**します。
- ◇ 学校・家庭・地域の連携により、子どもが乳幼児期・学齢期などそれぞれの発達段階に応じて、**様々な場所で読書を楽しめる環境づくり**を進めます。